

## 【国語】

しっかりと読み書き能力を身に付けることは、自らの人間としての尊厳を獲得する基盤になるものです。特に国語力として必要とされているのは、正しい言葉遣いや文章理解の能力、さらに自己を柔軟に他者に対して開く話す力、書く力であると考えています。入試では、その基本線に沿った出題をしています。

例年、漢字やことわざ・慣用句・敬語その他の言葉の問題と二題の読解問題を出題しています。

漢字やことわざ・慣用句、そして敬語の使い方などの言葉については、日ごろから書きと読み、意味の学習、正しい言葉の使い方を心がけていただきたいと思いますし、その場の文脈にあった用法・使い分けなどについてもきちんと整理して学習しておいてほしいと思います。特に漢字については、読めても正確に書けないことが多いので、手を動かして書いて覚えることをしてほしいと思います。

文章読解については、基本的語彙の理解や文脈的理解に立脚した正確な読解を求めます。要所要所の文脈理解、さらに文章の総合的な論旨の理解などについても正確な把握ができるように学習していただきたいと思います。

なお、記述問題においては、部分点を考慮しています。

## 【算数】

算数では、小学校6年生までに習うすべての分野が試験範囲となるように問題を作成します。すなわち、計算問題から始まり、面積や体積の測定、割合と比、関数とグラフ、図形の性質など、特定の分野にこだわることなく、問題レベルも基本から応用まで、幅広く出題しています。問題形式については、いわゆる一行形式の問題を数題、大問を数題というスタイルは例年と変わりません。もちろん、年度によって、大問に当たる問題の内容が図形になったり、関数になったりと変化していますが、いずれの場合も、基本事項の定着度、思考力や応用力、論理性、算数のセンスなどを入学試験を通して測ろうとしています。

過去、グラフを描かせたりする問題を出題したこともありますが、必要な場合には定規やコンパスなどを学校の方で用意いたしますので、準備する必要はありません。また、部分点については問題の難易度によって一部与えていることもあります。来年度の入試については、今年度と同様、一部の問題で途中の式や考え方を答案に書いてもらうような問題を出題する予定です。

## 【理科】

理科では、好奇心や探究心をもちながら自然に親しみ、目的意識とともに観察・実験を行うことにより、科学的な見方や考え方を養うことを目指しています。このことをふまえ、次のような方針のもとに入試問題を作成しています。

1. 「自然事象への関心・意欲・態度」、「科学的な思考」、「観察・実験の技能・表現」、「自然事象についての知識・理解」の各観点をなるべく全て含むようにしています。特に、「観察・実験の過程における科学的な思考力や知識・理解を見る問題」や「学習内容を日常生活と関連づけたり、生命尊重・環境保全に対する関心・態度を調べる問題」を出題するように心がけています。
2. 物理・化学・生物・地学の各分野から出題し、総合的な力も求めます。
3. 解答の形式は、記号や用語によるものだけではなく、図を描く、記述するなど多様になるようにしています。その場合、部分点を考慮します。

## 【社会】

社会科では、地球市民の一人として、主体的に社会に向きあう力を育てたいと考えています。出題方針の柱は2点あります。第一に、基本的なことがらを確実に理解できているかを見るような出題です。第二に、それらの知識を活用し、統計データを読みとったり、筋道をたてて説明したりする力をはかる出題です。

地理分野・歴史分野・公民分野の3分野からは、ほぼ均等に出题しています。地理分野は、日本のさまざまな地域の自然環境や産業・貿易などについて、歴史分野は、日本の歴史上の事件・人物・政治・文化・外交など全般から、公民分野は、政治のしくみ・日本国憲法・身近な現代社会のことがらを中心に出题しています。

漢字で書くように指定されている用語は、漢字で答えられるようにしてください。理由や背景を説明してもらう問題については、部分点を考慮しています。